

■ 目的

- 身近な問題を政治・行政任せにせず、住民自らが自分ごととしてまちの状況を知り意見を出し合う
- 地域のこと、「みんな」のことについて具体的に考え、課題解決を目指す

■ 「自分ごとと化会議」の特徴

(1) 住民基本台帳等から無作為に選ばれた町民が参加する

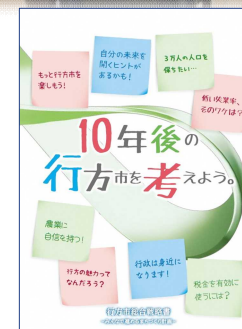
- これまで行政の取組みやまちづくりに関わってこなかった「ふつうの人」が多く参加
- 女性や若者の参加者率が高いのが特徴

(2) 全3回を通して、課題解決策を取りまとめる

- 外部（構想日本）の人間がコーディネーターを務め、参加する住民の発言から論点が生まれ議論を発展させていく
- 「言っぱなし」で終わらないように、参加者は具体的な課題とその改善策を記入しながら、参加者同士の合意形成を図り、提案を取りまとめる

(3) 「自分はどうか」「どんな社会で暮らしたいか」をもとに議論する

- 行政や各種団体への要望に終始するのではなく、課題解決のためにまずは自分たちでできることから考える



住民研修/ 事業レビュー (第1回)

参加住民に対し、自分ごと化会議の意義や目的、事業シートの見方などを研修。

与謝野町が現状捉えている公共交通の課題や取り組んでいる事業を明確にするために、地域住民を交えて事業レビュー（評価）を行い、行政が取り組んでいる事業の理解を深める。その上で、日常抱えている課題や改善策を自由に出し合う。

住民協議会 (第2回)

ナビゲーターに、他自治体の成否事例を紹介して貰い、客観的な視点での課題を発散していく。その上で、1回目で出た生活実感を伴った課題について議論を深掘りする。

住民協議会 (第3回)

第1,2回で出てきた課題を第3回で集約し、提案書としてまとめる。提案書の素案の中に、これまでの議論の内容が正確に反映されているか確認する。

提案書 完成

事業レビュー・住民協議会で話し合ってきたこと及び議論ごとに記載する改善提案シートの内容等を基に、今後取り組んでいくべきことを明らかにし、自分（住民）たちができること、地域でできること、行政に求めることを明文化し、提案書としてまとめる